

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900046		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター麦野		
所在地	福岡県福岡市博多区麦野3丁目15-22		
自己評価作成日	平成24年11月28日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4090900046-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成24年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な環境の下ご入居者が、その方らしく楽しい日常生活が送れるように配慮しています。 ・ご入居者の安心・安全で穏やかな生活を送ることができるように、その方に合った習慣・生活リズムを整えて個別ケアをたてて支援に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者にいつも笑顔で明るく楽しく過ごして欲しい」との理念に添って、利用者に美味しい物を食べて喜んで頂くよう、食事には特別の配慮がなされてる。出汁は昆布と鰹節でとり、食材は近隣の魚屋や八百屋から新鮮な物を配達して貰う。献立委員会が利用者の嗜好を掴んで手作りの食事が提供されていた。調査時も昆布と鰹節のいい香りがホームに漂い食欲がそそられる環境だった。2カ月に1回は敬老会やXmasなどのイベントが行われ、誕生日にはケーキでお祝いするなど家庭的な雰囲気作りが進められていた。年2回開かれる「ニチイ祭り」には地域の方たちや子ども会の親子連れが参加して、利用者に喜ばれている。開設当初は地域との繋がりが持たずに苦悩の日々だったが、職員の方から地域に積極的に働きかけを行って、やっと、地域の方たちが少しずつ来園されるようになったとのことで、地域の方たちとの触れ合いを大切にしたいという職員の思いが痛い程伝わってきた。利用者に喜んで過ごしていただける居心地の良いホームづくりの今後に、大きな期待が膨らむ事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
(1F麦わらぼうし)					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型を踏まえた事業所の理念をつくり、毎日唱和し、ケアの実践に生かしていけるように取り組んでいる。	法人と事業所の理念があり、事業所のものは職員で話し合い2年前に地域密着型に即した物が作成された。朝は法人、夕方は事業所の理念を唱和し、それぞれを大事に、地域との関わりをもって、地域に定着してきた。職員は内容を熟知しており、ケアにも実践されている。	理念の周知は、なされてきているので、今後はミーティングなどで理念に基づいた話し合いの機会をもつことで、さらにケアへの意識を高めていくことなどが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、地域住民の方々との交流を深めている。また、ご入居者と散歩に出かけ、近所の方にお会いした時は挨拶を交わしている。	ここ1、2年で地域への行事参加も積極的に行い、今では町内会長の来訪もあり、地域情報を頂いている。年に2回、地域を招いた「ニチイ祭り」を開催し、育成会の子供や地域の住民との交流を深めている。最近では地域行事に招かれるようになってきた。	地域からの信頼も受けて、交流が定着化してきたので、今後は利用者も一緒に参加を出来るような働きかけや、日常的な交流を進めていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を尋ねてこられた方に、認知症の理解や関わり方、見学など入居者様に配慮しながら応対等をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催できている。ご入居者の参加は難しく、ご家族の参加は少ない状態である。会議内容としては運営報告、外部からの調査等について報告、意見交換にてステップアップになるよう取り組んでいる。	地域代表からも積極的に参加されており、活発な意見が交わされ、防災体制や地域活動、地域交流に関しての情報交換などが行われている。家族の参加もあり、勉強会を行ったり、忌憚のない意見やアドバイスなども出され、運営に活かしている。議事録はお便りと一緒に家族にも報告している。	利用者や、市町村職員への呼びかけや、参加がないので、幅広い参加を求めていくことが望まれる。また、不参加者に対して、議事録の公開や報告を行う事で、さらに関わりを強くしていくことにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡や相談を行っている。運営推進会議に地域包括支援センターよりご参加いただいている。	ケアマネージャーが主に担当しており、報告や困難ケースの相談などがあったときには、行政と協力して行っている。地域包括とは空き情報の報告などを行い、市町村に対しても地域包括を通して報告をあげている。	相談体制はあるが、日常的に訪問する機会に乏しいので、介護申請を郵送でなく直接訪問で行ったり、運営推進会議の呼びかけや報告を通すことで、関わりを強めていくことに今後期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全員が周知徹底できるようにホーム会議で研修を実施し、ケア時の意識向上に繋げている。	日中は玄関施錠せず、センサーの利用によって出入りの管理をしている。一切の拘束をしない方針であり、年に1回の全体研修と日頃の指導によって職員への周知を図っている。利用者の状況も把握することで、センサーマットなども利用せず、見守りによって管理している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について全員が周知徹底できるようにホーム会議で研修を実施し、防止に努めている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護について職員が学べる機会として年1回ホーム内研修を実施しているが、本年度は出前講座依頼をしているため、日程調整中である。	成年後見を利用されている方もおられ、専門家とも連携しながら取り組んでいる。年に1回の研修や、地域包括の出前講座をおこなったり、家族も参加されている。説明用の資料も準備されており、单身の方や家族に説明出来るようにしている。専門家を招いての勉強会も計画されている。	成年後見制度に関しての理解と活用は進められているが、日常生活自立支援事業の周知や理解がされていない部分があったので、今後は勉強会や研修などでの学習を進めていくことが期待される。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に時間を頂き、契約書類等の項目毎に、ご理解・納得いただけるように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情・相談窓口の設置の説明を行っている。来所時に声かけして現状報告、相談等、ケアプラン説明時にご要望の確認を行い把握に努めている。意見や要望等は、カンファレンス開催、スタッフ間で統一、反映、実施に努めている。	家族の半数ほどが出席されて、家族会を年2回開催している。面会時やケア時にも要望や意見を聞き取り、来られない場合にも家族とは電話でコミュニケーションをとっている。お手紙や「麦野便り」によっても情報を報告しており、上がった意見や利用者の意見は申し送りで共有し、話し合いがなされている。	意見箱が設置されているが、あまり運用がされていないため、設置場所や、箱の形態、意見用紙の配布などで使いやすくし、さらに利用者・家族からの意見が出てくるような改善を行うことが期待される。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議時に、意見交換、協議を行い、反映できるように努めている。	本部の支店課長やパート職員も含めて毎月ホーム会議を行っている。レクリエーションや食事に関しての報告などがなされ、意見も言いやすい。日常的な申し送りや、ケアで気づいたこともすぐに話し合いがされ、利用者の配置の改善などにもつながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修や外部研修の参加を推進し、スキルを高めるように努めている。キャリアアップ制度がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集は募集先を明示して、会社での募集となっている。職員が各委員会活動や、行事、レクリエーションを担当制にして取り組んでいる。研修や資格取得のためには勤務調整を全員の協力で行っている。	職員は30～50歳代と比較的若く、男女もバランス良く配置され、お互いに話し合いやすい環境である。食事や、レクなど希望する役割を担ってもらい、担当は持ち回り、色々な仕事が出来るようになっている。職員にはキャリアアップとして昇給試験制度が半年で与えられる。休みの希望も融通しあっており、休憩時間や場所の確保もされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内で、高齢者虐待法や認知症について定期的に研修をすることで、高齢者の人権や尊厳について学び、人権尊重の意識を高めている。外部研修の取り組みができていない。	人権や、高齢者に関しての理解を深めるためにマニュアルや資料などを使って内部研修を年1回行っている。外部研修の案内も職員に回しているが、今のところ参加にまでは至っていない。	職員の理解を深めていくために、社協や行政とも相談して、人権学習の資料や映像資料を使った研修などで職員の意識を高めていくことが今後期待される。

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	会社主体の研修には勤務調整を行い、参 加している。認知症介護実践者研修等、該 当者には希望を募り、参加できるように配 慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	系列事業者とは2ヶ月に1回会議にて情報交 換、相談を行い、随時で連絡を取り合っ ている。他事業所とのネットワーク作りが少な い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当CM、病院のSW等により事 前に情報を頂き、ご要望とともに職員に周 知している。日常生活の中から、ご本人の 思いや状態を汲み取り、察知して職員間で 情報の共有に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	施設見学時に、ご家族・ご本人のご要望等 を伺い、入居時に確認、同意を得ながら関 係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向、状態を把握した上 で、全職員で情報の共有・ケアの統一を心 がけ、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人の負担にならないよ うに、できる事を行っていただきながら楽しく 過ごせるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時に近況をお伝えし、ご家族の話しを 傾聴、相談に応じている。遠方のご家族に は電話やお便りとして報告を行っている。定 期的な家族会開催、食事会のお誘いなど 交流を深めるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との交流は、ご本人・ご家族 のご意向を確認して、関係が途切れないよ うに支援に努めている。	入居時のアセスメントによって、家族、相談員、ケ アマネなどの関係者から情報を聞き取っている。 遠方からの利用者が多いが、家族とも協力して、 外出に連れ出してもらったりもしている。利用者 の思いを聞き取りながらも、家族との関わりの中 で出来る事に取り組んでいる。	

自己・外部評価表 (GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション、お茶等にお誘いして、職員と一緒に談笑することで、関わり合いを保ち、場面によっては声を掛け合っているように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、今後も何かあればいつでも相談等ができる、支援させていただけることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いやご希望を把握し、カンファレンスにて職員で情報を共有し、ケアプランに反映、実施している。	十分にセンター方式を活用し本人の思いや意向を把握している。入居時から半年ごとにアセスメントを取り直し、職員全員で取り組み、書き直し、見直しして状況の変化に対応している。意思疎通の困難な際も、機嫌の良いときに働きかけたり、表情や言葉のイントネーションを読み取り、家族とも協力して対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して、収集した情報を基に活用している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人を把握できるように、日々の申し送り、カンファレンス、ケアプラン実施表を活用して情報を全員で把握し、対応ができるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族のご意向、日々の状態等を基にカンファレンスを行い、現状報告や課題点を分析して、必要時にはアセスメントをしておし、具体的な支援方法を計画書に反映させている。	職員一人が二人までを担当し、アセスメントなども責任を持って行っている。出来る限り思いを実現できるようなプランを心がけ、カンファレンスによって共有している。見直しは3ヶ月の定期と随時に行い、家族や主治医とも連携して行っている。日頃のコミュニケーションも大事にし、日々のケアに反映させている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人・ご家族にご意向、日々の状態を踏まえてカンファレンスを行い、個別記録、支援記録を記入している。職員間での情報共有、実践対応を行いながら介護計画の見直しに努めている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のご意向に沿えるよう、可能な限り柔軟性を持ち、臨機応変な支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域包括、町内会等と連携を取り合い、必要に応じて連絡、相談を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の承諾を得て、協力病院の訪問診療、往診、連絡、相談を受けて、指示を仰いでいる。入居以前のかかりつけ医をご希望された場合は、ご家族の協力を頂き、通院、受診されている。	入居時にかかりつけ医にするか協力病院にするか意向を聞き、基本的には職員が通院介助を行い、専門医など家族が介助した場合は、その都度連携をとっている。提携医の往診は2週に1回、その他にも歯科や専門医の往診もあり、医療機関と協力してきめ細やかな支援体制がとられている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とは、必要に応じてご入居者の状態報告、相談を行っている。医療連携により週1回訪問看護による健康チェックが行われているため、その時と24時間体制での電話連絡の協力を得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医師、看護師、SW、ご家族、当施設管理者、当施設CMと連携をとり、安心して治療を受けられ、早期退院に向けた対応と退院後の必要なケアが受けられるように、情報交換、相談等を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へ入居時に当施設ができる範囲をご説明、ご意向を伺い、協力病院の医師へ報告、相談している。具体的な支援、対応については入居後に体調異変状態に合わせて、医師の見解、ご家族のその時のご意向に沿ってできる限りの支援を行っている。	入居時に「重度化した時場合の対応に係る指針」で家族に説明し、基本的には看取りは困難だが苦痛がないようにギリギリまで全力を尽くす旨を紙面で交換している。急変時は訪問看護ステーションが24時間対応し、主治医に連絡が取れるようになっている。研修はケース毎に実践の中で実施している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制は周知できている。管理者、ユニットリーダーの判断にて医師及び看護師、ご家族に連絡行い、指示を仰ぎ、対応している。応急処置等はホーム内研修を行っている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、年2回の防火訓練を消防署員立会いのもと、実施している。職員は非難場所、経路の確認、連絡、役割分担の取り決めができています。地域は運営推進会議にて協力要請をしている。	年2回、夜間想定も含めた防火訓練を消防署立ち合いで実施し、訓練後ホーム会議で反省会を行っている。非常食の備蓄も3日分常備し賞味期限も確認している。地域の防災訓練にも毎回2名が参加している。避難場所や避難経路も消火器の所に貼付し、災害時の役割分担も決めている。	今後は地域への働きかけを更に強めていき、事業所の防災訓練にも参加して貰うよう働きかけたり、連絡網に地域を取り入れて協力体制を深めていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の性格や好み、嫌がることなどを十分に把握して、プライバシー保護に努め、個々に合わせた声かけ、対応をしている。	「自分だったら、自分の親だったら、どう対応して欲しいか」を、常に念頭に置いて一人一人の人格を尊重したケアに当たるように常に管理者が職員を指導し、申し送り時にも伝えている。年に1回、会社が個人情報保護トレーニングテストを実施しており全職員が受けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を営む中で、ご本人の思いなどを引き出し、自己決定できるように心がけた対応を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の生活リズムに合わせた支援を行っている。その都度声かけし、ご本人の希望に沿って対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用して身だしなみを整えている。ご希望があればご家族の協力を得て、地域の理美容室へ行っていただいている。化粧、マニキュア等は自由におしゃれできるように声かけ、お手伝いしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の嗜好を把握し、献立を立てている。必要であれば食事形態、調理法を状態に合わせて変更している。準備、片付けは出来る方を中心に職員と一緒にやっている。	メニューは本部が作成した物を元に、献立委員会ですべての事業所にあったものに作り替えている。食材は旬の物や新鮮さにこだわり、近隣の商店から配達されている。特に汁には力を入れて、匂いから楽しんでもらえるよう考えられ、食事に変化を与えるために出前のうどんや、お寿司、仕出し弁当などをとることもある。	食事を楽しんでもらえるような配慮がされているが、職員は別で食事をしているため、今後は検査の実施などによって同じ物を食べて、利用者の目線で食事をしていくことが期待される。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合わせた食事形態と摂取量、水分形態と摂取量の提供をしている。記録に残し、1日の途中で計算して、不足量を補えるようにしている。状態によっては医師、ご家族に相談、対応を行っている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。月1回、歯科による訪問診療、往診、口腔ケア、指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人に合わせた排泄、誘導、おむつ交換を実施している。排泄間隔を把握し、ご本人の間隔にてトイレへの声かけ、介助を心がけ自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使って管理して、それぞれの排泄リズムを把握している。時間帯によってリハビリパンツにしたり、パットを小さくしたりと工夫し、排尿行為が改善につながった方もいた。出来る事は自分でしてもらい、羞恥心にも配慮し、周囲や本人の意思表示をくみ取った声かけを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態は職員全員で把握できるように記録、申し送りを行い、必要時は医師、看護師に報告、相談している。飲食物はオリゴ糖、ヨーグルト、食物繊維を含む食材などの工夫、レク、散歩など個々に応じた取り組みをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は月～土曜日まで実施しており、1名週3回は入れるようにしている。ご希望があれば毎日入浴も可能である。	週に3日は入浴して貰っている。希望者は毎日入浴も可能だが、入浴を余り望まれない方が多い。拒否される方には家族に来て貰って声掛けをして貰ったり、繰り返し声掛けをしたりしている。浴室は個浴で、一人ずつお湯も入れ替えており希望者には入浴剤も提供している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活習慣やご希望に沿って散歩、レクリエーション、お手伝いなどを取り入れて夜間安眠できるように支援している。年齢、体調、状態に応じて日中休養時間を設ける方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、リーダー、CMが薬剤師より説明を受けて、全員が周知徹底できるようにお薬表のファイルを作り、保管、確認できるようにしている。服薬確認は2名で声出し、飲み込むまで確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にご家族から伺った趣味、嗜好などをもとにご本人のご要望に沿って、役割りや楽しみを持ち、暮らせるように支援している。(花の水やり、食器拭き、洗濯物関連、菜園など)		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴、近所への買い物は出かけられるように支援している。ご希望により近隣の美容室、食堂への外出は行っているが、普段いけない場所への支援は一部の方のみとなっている。	歩ける方は毎日散歩を楽しんでいる。車椅子の方も週1回は散歩に連れだしているが、外出できない方が多いので、カラオケやゲームなど室内の娯楽を楽しんで貰える努力をしている。希望されれば美容室などには家族に同行して貰っている。外食も検討しているが困難な方が多いので今後の課題である。	日常的な外出はなされているが、今後は更にイベントの充実を図るために、家族とも協力し合っ外出行事を企画したりして、外出の機会が増える取組みがなされることが期待される。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本ご家族、小額であればホーム管理にて買い物時にお渡しし、ご自分で支払いできるように援助している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く、郵送する、家族への電話などを希望された時は(ご家族承諾の上)お手伝いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の共有スペースは自然の光が入り、大きな窓により風通りが良く、ソファなどでゆっくり過ごせる。壁には季節毎の飾りをご入居者、職員共同で作成、飾りつけを行っている。混乱をまねかないよう、声かけなど職員が配慮している。	共有スペースのリビングは南向きで、大きな窓からは自然な光や心地よい風が入ってくる。調査時も暖かい陽光の中、利用者はソファでゆったり過ごされていた。職員と一緒に飾り付けられたXmasツリーが季節を感じさせていた。冬はエアコンと床暖房も設置されており、浴室にも暖房が入れられるなど、高齢者に配慮の行き届いた居心地のよい工夫がなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファ設置をしており、テレビを観たり音楽を聴いたり各個人で好きに過ごせる空間を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのもの、思い出があるものを持ち込まれるように入居前にご家族に説明、協力を得ているため、慣れ親しんだ雰囲気作りをしている。	居室には備え付けのクローゼットがあり収納スペースも広くて使い易い設計になっていた。入居者は自分の家で使っておられたであろうタンスなど馴染みの物を持ち込まれており、慣れ親しんだ家庭の雰囲気作りがなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線上に手すり、浴室、トイレには呼び出しボタンが設置されている。エレベーター設置、洗面台、テーブルの高さなどに配慮しており、ご入居者が自立に向けて過ごせるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900046		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター麦野(2F)		
所在地	福岡県福岡市博多区麦野3丁目15-22		
自己評価作成日	平成24年11月28日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な環境の下ご入居者が、その方らしく楽しい日常生活が送れるように配慮しています。 ・ご入居者の安心・安全で穏やかな生活を送ることができるように、その方に合った習慣・生活リズムを整えて個別ケアをたてて支援に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果			(2F麦っこ)	
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型を踏まえた事業所の理念をつくり、毎日唱和し、ケアの実践に生かしていけるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、地域住民の方々との交流を深めている。また、ご入居者と散歩に出かけ、近所の方にお会いした時は挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を尋ねてこられた方に、認知症の理解や関わり方、見学など入居者様に配慮しながら対応等をしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催できている。ご入居者の参加は難しく、ご家族の参加は少ない状態である。会議内容としては運営報告、外部からの調査等について報告、意見交換にてステップアップになるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡や相談を行っている。運営推進会議に地域包括支援センターよりご参加いただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全員が周知徹底できるようにホーム会議で研修を実施し、ケア時の意識向上に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について全員が周知徹底できるようにホーム会議で研修を実施し、防止に努めている。	

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護について職員が学べる機会として年1回ホーム内研修を実施しているが、本年度は出前口座依頼をしているため、日程調整中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に時間を頂き、契約書類等の項目毎に、ご理解・納得いただけるように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情・相談窓口の設置の説明を行っている。来所時に声かけして現状報告、相談等、ケアプラン説明時にご要望の確認を行い把握に努めている。意見や要望等は、カンファレンス開催、スタッフ間で統一、反映、実施に努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議時に、意見交換、協議を行い、反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修や外部研修の参加を推進し、スキルを高めるように努めている。キャリアアップ制度がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集は募集先を明示して、会社での募集となっている。 職員が各委員会活動や、行事、レクリエーションを担当制にして取り組んでいる。研修や資格取得のためには勤務調整を全員の協力で行っている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内で、高齢者虐待法や認知症について定期的に研修をすることで、高齢者の人権や尊厳について学び、人権尊重の意識を高めている。外部研修の取り組みができていない。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社主体の研修には勤務調整を行い、参加している。認知症介護実践者研修等、該当者には希望を募り、参加できるように配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業者とは2ヶ月に1回会議にて情報交換、相談を行い、随時で連絡を取り合っている。他事業所とのネットワーク作りが少ない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当CM、病院のSW等により事前に情報を頂き、ご要望とともに職員に周知している。日常生活の中から、ご本人の思いや状態を汲み取り、察知して職員間で情報の共有に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時に、ご家族・ご本人のご要望等を伺い、入居時に確認、同意を得ながら関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向、状態を把握した上で、全職員で情報の共有・ケアの統一を心がけ、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人の負担にならないように、できる事を行っていただきながら楽しく過ごせるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況をお伝えし、ご家族の話を傾聴、相談に応じている。遠方のご家族には電話やお便りとして報告を行っている。定期的な家族会開催、食事会のお誘いなど交流を深めるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との交流は、ご本人・ご家族のご意向を確認して、関係が途切れないように支援に努めている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション、お茶等にお誘いして、職員と一緒に談笑することで、関わり合いを保ち、場面によっては声を掛け合っているように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、今後も何かあればいつでも相談等ができる、支援させていただけることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いやご要望を把握し、カンファレンスにて職員で情報を共有し、ケアプランに反映、実施している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して、収集した情報を基に活用している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人を把握できるように、日々の申し込み、カンファレンス、ケアプラン実施表を活用して情報を全員で把握し、対応ができるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族のご意向、日々の状態等を基にカンファレンスを行い、現状報告や課題点を分析して、必要時にはアセスメントをしなおし、具体的な支援方法を計画書に反映させている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人・ご家族にご意向、日々の状態を踏まえてカンファレンスを行い、個別記録、支援記録を記入している。職員間での情報共有、実践対応を行いながら介護計画の見直しに努めている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のご意向に沿えるよう、可能な限り柔軟性をもち、臨機応変な支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域包括、町内会等と連携を取り合い、必要に応じて連絡、相談を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の承諾を得て、協力病院の訪問診療、往診、連絡、相談を受けて、指示を仰いでいる。入居以前のかかりつけ医をご希望された場合は、ご家族の協力を頂き、通院、受診されている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とは、必要に応じてご入居者の状態報告、相談を行っている。医療連携により週1回訪問看護による健康チェックが行われているため、その時と24時間体制での電話連絡の協力を得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医師、看護師、SW、ご家族、当施設管理者、当施設CMと連携をとり、安心して治療を受けられ、早期退院に向けた対応と退院後の必要なケアが受けられるように、情報交換、相談等を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へ入居時に当施設ができる範囲をご説明、ご意向を伺い、協力病院の医師へ報告、相談している。具体的な支援、対応については入居後に体調異変状態に合わせて、医師の見解、ご家族のその時のご意向に沿ってできる限りの支援を行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制は周知できている。管理者、ユニットリーダーの判断にて医師及び看護師、ご家族に連絡行い、指示を仰ぎ、対応している。応急処置等はホーム内研修を行っている。		

自己・外部評価表（GHニチイケア麦野2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、年2回の防火訓練を消防署員立会いのもと、実施している。職員は非難場所、経路の確認、連絡、役割分担の取り決めができています。地域は運営推進会議にて協力要請をしています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の性格や好み、嫌がることなどを十分に把握して、プライバシー保護に努め、個々に合わせた声かけ、対応をしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を営む中で、ご本人の思いなどを引き出し、自己決定できるように心がけた対応を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の生活リズムに合わせた支援を行っている。その都度声かけし、ご本人の希望に沿って対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用して身だしなみを整えている。ご希望があればご家族の協力を得て、地域の理美容室へ行っていただいている。化粧、マニキュア等は自由におしゃれできるように声かけ、お手伝いしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の嗜好を把握し、献立を立てている。必要であれば食事形態、調理法を状態に合わせて変更している。準備、片付けは出来る方を中心に職員と一緒にやっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合わせた食事形態と摂取量、水分形態と摂取量の提供をしている。記録に残し、1日の途中で計算して、不足量を補えるようにしている。状態によっては医師、ご家族に相談、対応を行っている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。月1回、歯科による訪問診療、往診、口腔ケア、指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人に合わせた排泄、誘導、おむつ交換を実施している。排泄間隔を把握し、ご本人の間隔にてトイレへの声かけ、介助を心がけ自立に向けた支援を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態は職員全員で把握できるように記録、申し送りを行い、必要時は医師、看護師に報告、相談している。飲食物はオリゴ糖、ヨーグルト、食物繊維を含む食材などの工夫、レク、散歩など個々に応じた取り組みをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月～土曜日まで実施しており、1名週3回は入れるようにしている。 ご希望があれば毎日入浴も可能である。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活習慣やご希望に沿って散歩、レクリエーション、お手伝いなどを取り入れて夜間安眠できるように支援している。年齢、体調、状態に応じて日中休養時間を設ける方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、リーダー、CMが薬剤師より説明を受けて、全員が周知徹底できるようにお薬表のファイルを作り、保管、確認できるようにしている。服薬確認は2名で声出し、飲み込むまで確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にご家族から伺った趣味、嗜好などをもとにご本人のご要望に沿って、役割りや楽しみを持ち、暮らせるように支援している。(花の水やり、食器拭き、洗濯物関連、菜園など)		

自己・外部評価表(GHニチイケア麦野2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴、近所への買い物は出かけられるように支援している。普段いけない場所への支援は一部の方のみとなっている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本ご家族、小額であればホーム管理にて買い物時にお渡しし、ご自分で支払いできるように援助している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く、郵送する、家族への電話などを希望された時は(ご家族承諾の上)お手伝いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の共有スペースは自然の光が入り、大きな窓により風通りが良く、ソファなどでゆっくり過ごせる。壁には季節毎の飾りをご入居者、職員共同で作成、飾りつけを行っている。混乱をまねかないよう、声かけなど職員が配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファ設置をしており、テレビを観たり音楽を聴いたり各個人で好きに過ごせる空間を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのもの、思い出があるものを持ち込まれるように入居前にご家族に説明、協力を得ているため、慣れ親しんだ雰囲気作りをしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線上に手すり、浴室、トイレには呼び出しボタンが設置されている。エレベーター設置、洗面台、テーブルの高さなどに配慮しており、ご入居者が自立に向けて過ごせるようにしている。		